

Letter from Human Life Culture Communication

○台湾とのコラボ・グリーンツーリズム特集

<HCCグループ(湖国グリーンツーリズム協議会の事務局)として>

<台湾大學建築與城鄉研究發展基金會(台湾側のコラボレーター)として>

<ツアーに参加した台湾からの留学生さんより>

○コットン&野草摘み体験

○編集後記に見せかけたベルギーオランダ旅行記

「第一回 コットン栽培&野草クッキングワークショップ」参加者募集中！！

日時：5月16日(日)9:30~16:00

集合場所：JR能登川駅 西口ロータリー

体験場所：「みずほの里いなか体験さわ」

定員20名(先着) 参加費2500円

申し込み：077-525-6674

(第2回は7月、第3回は10月、第4回は12月開催の予定)

★フェアトレードショップ「ねこのひたい」★ スマイル営業中です♪遊びに来てね

住所：大津市長等2丁目9-1まちなか交流館

TEL：077-525-6674

10:00~19:00 (毎週水曜は定休)

◎大津 百町市 出店します！！

日時：4月17日(土)10:00~15:00

場所：天孫神社及びその周辺※大津駅前中央大通りと東海道の交差点付近(毎月第三土曜日開催。ねこのひたいも毎月出店予定)

ねこのひたいはせまいのか

こんにちは！最近新聞や雑誌に取り上げて頂いたり、調子に乗っているスタッフ甘中です。

フェアトレードショップ「ねこのひたい」では新たに大津の養蜂家、「瀬尾養蜂園」の国産ハチミツを入荷しました！気になるお味は「トチハチミツ」「アカシアハチミツ」「百花ハチミツ」の全3種類(300g1350円~)。私のオススメは高島、余呉で採集されたトチハチミツ♪独特のこっくりした甘さとスッキリした香りは飲み物にも、お料理にもピッタリ。気づけばあっという間に一ビン使い切ってしまったとき。他にも新商品ぞくぞく入荷中！

桜シーズン到来と共に、大津の旨い物アソートセット「大津のお土産」の販売もスタート！三井寺にお花見ついでにご来店下さいな♪

台湾とのコラボ・グリーンツーリズム特集

<HCCグループ(湖国グリーンツーリズム協議会の事務局)として>

以前にもご紹介しましたが、2009年度、HCCグループは、国際的なグリーンツーリズムに取り組みました。今回は親日国として知られる台湾から、モニターをお招きする「湖国めぐりツアー」を運営しました。7月から余呉、高島、近江八幡と協議を重ね、また台湾側ともやりとりを重ねて、11月29日から4泊5日を実施しました。「湖国めぐりツアー」のコースは2つ。ツアー初日は近江八幡での共通プログラム、そして2日目は近江八幡を出発、沖島を経て、竹生島で余呉と高島にわかれしました。3日は、余呉では障子張りや猪鍋づくり、高島では針江のホームステイやえり漁でゆったり過ごし、4日目にそれぞれの地域から京都に向かいました。

取り組んでみて実感したのは、「異文化をもつ人に滋賀のことを知ってもらおう」というのは「当たり前だと思っていたことに気づかされる」ということです。これまでグリーンツーリズムに関わる中では、地域の人にそう喋っていたのですが、翻訳作業などをしてみたり、また台湾側から質問が来ると「そうか、こういうことも説明しないといけないんだなあ」と感じるのです。なにしろあちらには、お布団はないのです。それにアジアならではのつながりを感じることも多くありました。例えば「羊羹」という日本ではお菓子ですが、中国では名前の通り羊のスープの煮ごりのことだったのが。。などなど。

ツアーは滞りなく終了し、みなさんに喜んで頂けたようです。また日本のメディアをはじめ、台湾の雑誌にも取り上げて頂きました。

それにこれをきっかけに、交流館には台湾や中国からの方も来ていただけるようになり、国際色を増しています。さてさて、もう新年度になりました。今年度もこうした交流をはじめ、楽しい企画をみなさまとともに進めて行ければと考えています。(浅野 智子)

<台湾大學建築與城鄉研究發展基金會(台湾側のコラボレーター)として>

このグリーンツーリズムは、わたしたちの財団法人、台湾大学建築都市農村研究發展基金会にとっては、台湾人のモニターを日本に送るというはじめての試みでした。これまで、スタディーツアーなどで多くの外国人を受け入れた経験はあったのですが、人々を日本という国に連れて行くのはわたしたちスタッフにとってははじめてだったのです。

台湾でも、地方の人々が地域活性化のために、行政支援をうけながら、さまざまな方法を試みています。ですので、多くの人々がこうしたツアーを楽しんでいます。実際わたしも2008年の夏に、浅野さんに針江に連れて行ってもらいました。ガイドの方に集落を案内してもらったり、生水の郷に泊まって楽しかったです。地域の方は友達のように迎えてくださり、新鮮な有機野菜を夕飯に差し入れてくれました。針江では、農村での生活の一端を垣間見ることができました。今でもたまたみの香りを思い出します。また針江の方が、地域の生活と訪問者への対応のバランスを取るよう、活動されていることも知りました。地域では、訪問者が生活を乱さないよう、でも地域の生活文化や歴史を理解できるよう尽力されていました。こうしたことから、わたしは浅野さんと、海外からの訪問者が滋賀の農村を訪れ交流するグリーンツーリズムを協働ですすめることができるのではないかと企画をはじめたのです。わたしたち財団法人は、このプロジェクトに加わることができたことを誇りに思っています。このプロジェクトでは、多くの文化的違いによるギャップを実感しました。そして実際、双方でプランを変更することもありました。具体的には、滋賀の地域の方々に必要な台湾でのマーケティング調査や、台湾

からのモニターにより合った形でツアーの内容を変えたり、旅行会社や航空会社との連携等です。文化の違いについてより理解するために多くの時間を費やしました。こうした工夫で、ツアーがよりよく運営されたと思っています。

これはモニターツアーですし、台湾の人々にとって、海外に行ってホームステイをしたりワーキングホリデーを体験するというのはまだ馴染みがありません。チラシだけでは広報するのが難しい現状がありました。

グリーンツーリズムは人々にとってひとつのかたちになりつつありますし、好まれてはいますが、海外のツアーを知らせるには時間がかかります。このツアーでは、わたしは日本で今までにない経験ができて驚きの連続でした(2008年の夏でもホームステイは経験していませんでした)。全長寺で障子の張り替えや餅つきなどをして、地域の方々と通訳や片言の日本語やジェスチャーで交流することができました。お漬物がたくさんある郷土料理の夕飯をいただきましたが、雪の多い地域で、野菜の保存食がとても重要だと言うことがわかりました。また余呉での2日目の夕飯は、地域の「おばさん」と一緒でしたが、通訳や英語が無い状況で、本当に楽しみました。今でもサンババ(三婆)さんやみなさんと囲んだ夕飯は心に残っています。それに今でもメールで交流をしているのです。今ではこのサンババさんの年齢をたすと210歳を超えることも知っています。でもわたしは日本語をもっと学ばなければいけません。というのもヒロコ婆さん(サンババの一人)は日本語でメールを送ってくれるのです。でもそれも毎回楽しみなのです。

グリーンツーリズムでは、地域の人々がもっとも大切です。そして友達になることが、来訪者がリピーターになるために一番よい方法です。でもマストツーリズムではこうした体験はできません。それに旅行者も、次々と違うところに行きたがります。それはマストツーリズムは訪問先の数を競うようなメダル集めに似ているからです。わたしは一つのところに長く滞在したいと思っています。そして日本にまたくることがあったら、滋賀を最優先にしましょう。それは友人がいますし、このツアーで協働したNPOの方々がいるからです。お土産を持って友達を訪問するでしょう。

またこの滋賀へのツアーのモニターもよい友達になりました。わたしたちは台湾に帰ってから昼食会を開いてこのツアーを振り返ったりしましたし、メールをときどき交換しています。わたしたちはまた滋賀を訪れる機会を心待ちにしています。もちろん地域の方々の生活のリズムを尊重しなければ行けません。わたしたちはこのプロジェクトが季節を堪能するツアーを企画するのが滋賀の友達を訪問するのにご迷惑をかけないちょうどよい方法ではないかと思っています。(周 維崇)



沖島の風景



余呉での障子張り(こわごわ障子を破っているところ)

<ツアーに参加した台湾からの留学生さんより>

わたしは去年の9月に台湾から京都に来た陳喬叙です。このツアーのスタッフで、わたしの友達の古橋さんがこのグリーンツーリズムに誘ってくれて、本当に感謝しています。京都での普段の生活とはまったく違う体験ができました。

日本を訪れるほとんどの人が、大都市や歴史的な場所や社寺に驚くと思いますが、農村を訪れたり、そこでの生活に触れるような機会はめったにありません。このツアーは本当に感慨深く、日本の別の面をみる機会となりました。

農村の人々が田んぼを守っている知恵や、お寺での普段の生活。沖島では人々が琵琶湖を守るための水の浄化に取り組んでいました。小さな民家では都市にはない工夫が凝らされていました。こうしたことは、ガイドブックには決してのっていないことです。このツアーでは、毎日素晴らしい日本の景色や人々の生活を目にしました。ただ見るだけではなくて、実際に日本の伝統的なことをやってみました。座禅や、餅つき、そして鮎鮎も体験しました（でも味がわたしには強すぎましたが）。日本のことをもっと知ることができました。そしてちょっと都市から離れば、こうした自然が一杯で癒される場所があるということが驚きでした。

でも、一番すばらしかったことは、実はまだわたしは書いていないのです。それは農村の人々の笑顔とおもてなしの心です。ツアーの最初から、台湾から来たわたしたちはたくさんのおもてなしが本当にわたしたちを歓迎されました。わたしは余呉での2日目の夜のことを忘れることはできません。女性グループが夕食を用意してくれたのですが、最初はみんな恥ずかしがってだまりこんでいたのですが、わたしたちが片言の日本語とジェスチャーで語りかけたところ、おおいに盛り上がり大宴会となったのです。夕食の後、ほんとに暖かい心地がして、別れ惜しくなりました。農村の人々の生活に触れ、交流する機会はきっともうないでしょうから、この経験は、きっと日本で一番すてきな経験になったと思います。

このツアーの後、写真と体験談を台湾の友達に送りました。風景がまったく台湾と違うので、みんな本当に興味深く思っていました。

このツアーはわたしにとっては、最初、荒いスケッチ画のようなものでした。そしてこのスケッチに色踊りを与えてくれたスタッフに感謝しています。また農村で出会った方々は本当にすばらしい色合いを醸し出してくれました。わたしのスケッチはすばらしい一枚になっています。ありがとうございました。<陳喬叙>

コットン&野草摘み体験

3月のある日、私は、能登川駅に降り立ちました。最近少し暖かくなってきて、服装もダウンから軽いジャケット風のコートに変える頃です。その日、私の住む大津市は、それはもう暖かくて、私の気分は最高潮でした。さて、能登川駅に降り立ちました。ああ、ここは本当に同じ滋賀県でしょうか。実は違う県に降り立ったのではないのでしょうか。ここは冬の街。ようこそウインター。なぜ私が能登川駅に来たかという、5月に開催される「コットン栽培&野草クッキング」の取材をするためです。

コットンと言えば、思い浮べるのは、コットン素材の服とか？……と語尾に？が付くくらい私のコットンに対する知識は薄いのです。初めてコットンボールを見たときは衝撃が走りました。枝の先に綿がなっているっ！！しかも、花が咲くように、可愛らしく咲いているんです。そんな博識ならぬ薄識でのぞんだのが今回の取材でした。ひとつ付け加えると野草の知識もないです。昔は土手に生えていたつくしを食べたことはありますが、今となっては、つくしを探すのも一苦労です。大津市の街もだんだん変わってきています。

取材を受けてくれたのは、「みずほの郷 いなか体験さわ」の澤さんです。初めてお会いしたのに、どんどん

会話が広がっていく、楽しい方です。

そんな澤さんにまず連れて行ってもらったのは、愛知川の河川敷の遊歩道。ここで野草を採取するわけです。しかし、今は暖かくなってきたとはいえ、ここは冬！野草はなっていないだろうと思っていましたが、ありました。次々、野草を見つけていく澤さん。え？え？そんなのあるんですか？お茶ってこんな普通に生えてるんですね。わさびってこんなところに、しかもこんなたくさんあるものなんですか。おもむろにわさびを引っこ抜き持って帰る澤さん。さすが、慣れていらっしやる。

そして、驚愕の事実。ほとんどの野草が食べられるって本当ですか？！もちろん私だって、タラの芽の天ぷらを食べ、「こんなおいしい天ぷら食べたことがない」と感動したことはありました。ほとんどの野草が食べられるってことは、この遊歩道全体「食のパラダイス」ってことですよ？！ああおながが鳴ります。

持って帰ったわさびは、生で食べれるほど美味で、葉っぱの部分は家に帰って一夜漬けにしてお酒のつまみとしておいしくいただきました。

ところで、この日滋賀の北部は本当に寒かったんです。コットンの話を聞いている間、私はずっと、コットンで作った製品を首に巻かせてもらっていました。コットンって見た目からは想像できないほど本当に暖かいものです。私がおの日巻いていたのはウール100%のショールですが、巻くとひんやりとするんです。でもコットンは巻いた瞬間暖かい。この違いはやはり、農薬を使わずに作っているから保温性が高く、温かいらしいんです。コットンの首巻とかコットンの腹巻が是非欲しいです。そうしたら、私は今年の冬を乗り越えられそうな気がします。

取材をしていることを忘れて楽しんでいた私ですが、ちゃんと学んだこともたくさんありました。5月には、もっと多くの野草が顔を出してくれるでしょうし、コットンは栽培から経験が出来るので、きっと楽しいワークショップになると思います！今から、暖かいコットンの温もりと、おいしい野草たちが待ち遠しい限りです。

<野中由似>

関連イベント・お知らせ

ワークショップはコットンの栽培から製品作りまで年間4回開催を予定しています。第一回は苗植えと春の味覚、野草クッキング。ただいま参加者募集中♪先着20名です！急げ～！！

「コットン栽培&野草クッキングワークショップ」
日時：5月16日(日)9:30~16:00
集合場所：JR能登川駅 西口ロータリー
体験場所：「みずほの里いなか体験さわ」
定員20名(先着) 参加費2500円
申し込み：077-525-6674

(第2回は7月、第3回は10月、第4回は12月開催の予定)

編集後記

に見せかけてベルギーオランダ旅行記

冬。それは引きこもりの季節。私は、秋の気配を感じ取った時から気分は憂鬱になり、冬には廃人と化してしまう程、寒いのが苦手です。しかし、社会人になった今そんなことは言われてられない。これからは、雪だろうが、冬の寒い日にかき氷だろうが文句を言っはならないと思ひ立ち、「よし、極寒のヨーロッパにいこう♪」と旅行会社へと駆け込んだのでした。

英語。それは宇宙語。言ってることも、ましてや書いてありことも、私が理解できたことは一度もない言語。なんで、日本語が世界の共有言語ではないのだろうと何度悔んだことかわかりません。しかし、「私はやれば出来るはずっ！！」ええ。もちろんツアーに申し込みました。

安心。安全。空港から添乗員さんが付いていてくれます。一緒に行ったのは、一つ年下の女の子。身長が小さすぎて、いつも一回で見つけることは不可能です。しかし、これは計算内。見つけることが不可能に近いので、一人旅を満喫することができるということです。

さて、私は海外に行くのは2回目です。1回目はお隣の国、韓国。近いです。北海道よりフライト時間が短いように思いました。今回はヨーロッパ。噂によると11時間も飛行機の中にいないといけない。そんなん！！11時間もの間どうするんですか。と思っていましたが、意外に楽しすぎました。だって、飛行機でお酒が飲めるなんて！！映画が見れるなんて！！ゲームで遊べるなんて！！なんて天国。そんなこんなで、アツという間にベルギーへ。いろんな人に言われました。ベルギーってどこ？何が有名なん？……なにしに行くの？決まってるでしょう！！ビールを飲みに行くんですよ！！あとチョコチョコレート。甘いものが大好きなお年頃です。教会もあるし、絵画も素敵。街を歩けば、中世の石畳が当時の面影を滲ませる。素敵ベルギー。そして、お料理もお隣のフランスの影響を受けてか整ったお味。そのお料理にはやっぱりビール。しかもビールの銘柄はなんと800以上。さすがの私も全部というわけにはいきませんでした。しかし、ツアーについてる昼と晩の飲み物は全てビール。そのあと繰り出すベルギーの夜の街では、ツアーで知り合った若者とパブで飲み比べ。ベルギーは最高でした。オランダと言えば、みんな一度は言ったことがあるであろう「オランダに行ったら人がおらんだ」……しかし、私は思いました。だって、ベルギーより人が多いじゃん。都会ですよ。陸続きのお隣の国なのに全く印象が違う。しかも、料理がガラッと変わったんです。

そういえば、ツアーの添乗員さんがベルギーにいるときにこう言いました。「ベルギーの料理はおいしいです。今のうちにかみしめておいてください」

ああ、理由がわかりました。だって、すごく味がいいんです。オランダ料理。びっくりしました。こんなにも味って変わっちゃうものなのだと。昔にイギリス風パブで食べた料理の次ぐらいに味がいい。うーん。

そうそう、オランダと言えば芸術の街ですよ。ゴッホにフェルメール、レンブラント。巨匠が名を連ねるオランダ。なんとなくわかる気がします。どんよりとした低い空。茶色やオレンジで統一された建物。どこを見ても絵になる、そんな街です。そして凍った川の水。……当初の目的を忘れてました。寒さを克服しにヨーロッパへ行ったんです。オランダの川の水は凍ってて、さらにその上でスケートが出来るとですね。そ、そんなに寒かったのか。そういえば、昼間からビールを飲んでるせいでほとんど寒さを感じませんでした。そうそう、あと英語も克服しようと思っていました。結果は、御覧の通りです。わからないという方は、直接私を訪ねてください。

<*絵と文*野中由似>

